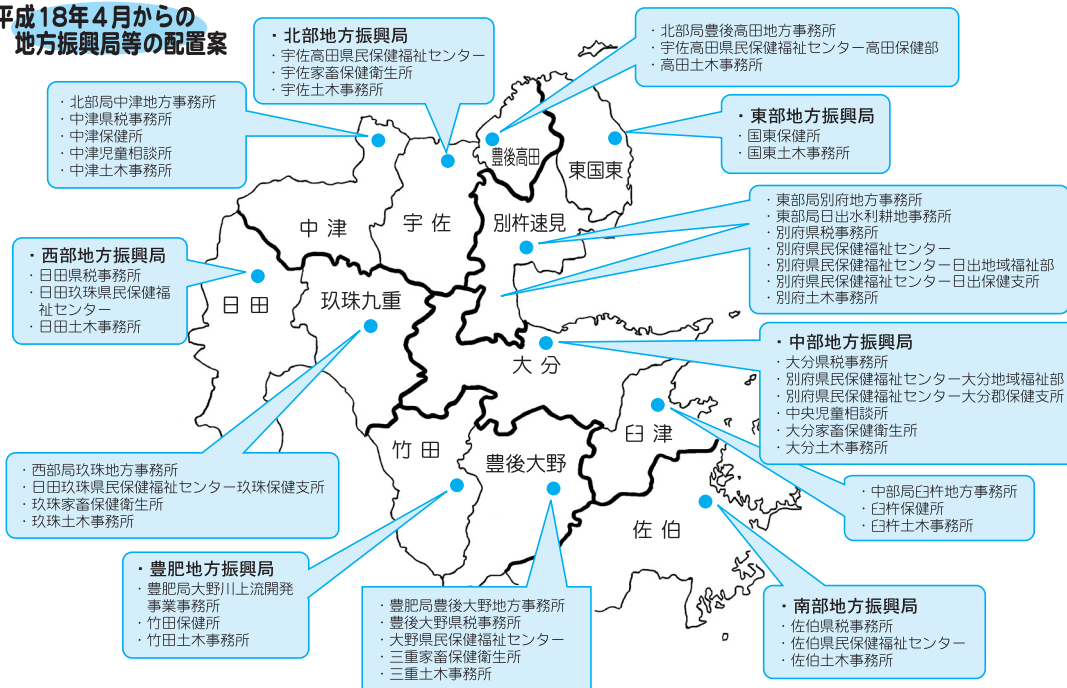


特集 大野地方振興局の 存続を

平成18年4月からの 地方振興局等の配置案



※ ●は現在の地方振興局の設置場所

大分県知事 広瀬勝貞様

平成17年8月18日

抗議文

貴職におかれましては、県政発展にご尽力されていることに深甚なる敬意を表します。

また、新生豊後大野市の振興につきましても、格段のご支援を賜っていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

さて、大分県の行財政改革プランに基づく地方振興局等の再編問題につきましても、私ども豊後大野市議会は新市に振興局の存続は絶対が必要であるとの意見統一を行い「地方振興局存続対策特別委員会」を全議員で設置し、これまで貴職にその要望を強く訴えて参ったところでございます。

ところが、8月9日に貴職から発表された地方振興局等の再編に伴う素案の内容を見る限り、市民をはじめ私どもの想いとかけ離れたものであり到底容認できるものではありません。

疑問に感じる大きな点は、これまで繰り返し述べさせてきたきましたが、豊後大野市を始め多くの自治体が市町村合併の直後、または合併途中であり、新市づくりに県の指導、助言がこれまで以上に重要な時期にもかかわらず、なぜこの時期に再編統一を急ぐのかということです。とりわけ豊後大野市は、町村だけで市政を敷いた初めての市であり地方振興局の存在が極めて重要であることは、これまで再三にわたって主張して参りました。

次の疑問として、地方振興局等の庁舎配置が、何故、豊後大野市ではなく竹田市なのかという点です。県の再編案の基本的な考え方や地方振興局の庁舎配置の原則を見る限り理解ができません。再編される振興局の主要業務として農林業施策の展開が挙げられていますが、現状で第一次産業指標に相違がない以上、むしろ、将来を展望し、農業大学校や農林関係の試験場を有している豊後大野市において人と施設の有機的結合を重視すべきと考えます。加えて同じ中山間地帯にある地域としては、当然のこととして、この原則に人口や面積を加味すべきであり、そのことが配慮されていないことも大きな疑問です。

さらに、2008年国民体育大会における競技種目、とりわけ馬術競技では豊後大野市の財政事情や市民感情を超える苦渋の決断をし、県へ協力を行ってきたにもかかわらず考慮されなかったことも大いに不満の残るところです。

以上、豊後大野市議会としては、率直に申し上げて地方振興局の再編については、必ずや豊後大野市に存続されるものと確信していただけに、今回の発表は我々市民を落胆させ、県に対する不満と憤りを抱くものであります。

よって、地方振興局の存続に圧倒的支持をいただいた豊後大野市民の期待に応えるため再考をお願いいたしたく、豊後大野市議会はここに遺憾の意を表明し抗議いたします。

豊後大野市議会
地方振興局存続対策特別委員会
委員長 小野 泰秀

こんな再編案

納得でけん!!

今後は

12月の県議会が最終的なヤマ場となることから、特別委員会としては、市民の会と連携しながら、再編案の撤回・修正を強く求めていくことを確認した。

8月18日

県から福浦総務部長、田中行政企画課長、吉長大野地方振興局長、他二人の出席により説明を受ける。「到底、容認できない」「県は豊後大野市を見捨てるのか」など激しい口調で議会の考えを伝えた。同時に反対の抗議文をつきつけた。

8月10日

特別委員会を開き、「この再編案は絶対納得できない」との意見から、直接、県の説明を聞くことを全会一致で決定。

8月9日

県は、大野地方振興局を廃止して、新たに4年間を限度に「地方事務所」を置くことなどの再編案を発表。

県知事に 決議文

特別委員長 小野 泰 秀

大分県は、現在12圏域に地方機関を配置しているが半世紀以上が経ち、今では道路も整備され地方機関への県民アクセスも向上したこと、市町村合併が進んでいること、さらには深刻な財政状況にあることなどから地方振興局の再編、統合を行い、来年度から実施する計画であります。

県は一市に一地方振興局の設置はしないことから、大野地方振興局が竹田直入地方振興局の選択が考えられます。我々豊後大野市議会は、絶対に地方振興局は本市に残すんだという強い決意のもと、特別委員会を設置いたしました。

新生豊後大野市は、町村だけで合併した県内唯一の市であります。新しいまちづくりの懸命に取り組んで

いる中、振興局の移転はまちづくりの求心力や活力を失い、住民サービスの低下を招き、地域経済にも大きな影響を及ぼす恐れがあります。今後は市執行部を始め、関係する団体や市民と連携を図り、一丸となって地方振興局の存続の運動を展開してまいりたいと思います。



広瀬知事に存続を求める (7月15日)

「市民の会」 を結成

7月26日、午後7時よりエイトピアおおの(小ホール)において、結成総会が開催されました。各団体、自治会、市長以下執行部、そして議会の総勢約300人出席のもと、来賓として後藤県議・佐々木県議のお二人を迎え盛大に行われました。総会では、これまでの経過説明、本市としての基本的な考え方、当面する今後の取り組みなどが報告されました。



存続を求める市民が結集

基本的な考え方としては、地方振興局の存続を本市発展の一つの条件として捉え、市執行部・議会を中心に各種団体はもとより、住民と一体となつて、その存続を県へ強く要望していくこと、執行部の取り組みとして、は、存続を求める署名を大分県知事宛に提出しました。最後に、役員選出となり、会長1名、副会長2名、参与若干名、幹事の皆さんが全員の拍手で承認されました。